



会報

DISTRICT 353

CLUB BULLETIN

創立 S34.6.9 承認 S34.6.27

鶴岡ロータリー

THE ROTARY CLUB
OF TSURUOKA

例会場 鶴岡市本町二丁目
ひ さ ご や

例会日 毎週 火曜日
P.M 12:30~1:30

事務所 鶴岡市馬場町
商工会議所内
☎ 0235 5775

会 長：阿 部 襄

幹 事：市 川 輝 雄

Let's Take A New Look!

ロイ D ヒックマン

「もう一度見直そう」

1972—73年度

第 663 号 1972.7.25 (火) (はれ)

会報はご家族みんなで読ましましょう

※ 点 鐘 阿部会長

※ ローターソング
「奉仕の理想」

〔1〕 出席報告

本日の出席	会員数	63名	欠席者	阿部(公)君、長谷川君、橋浦君、平田君、石黒君、五十嵐(一)君、今野君、三浦君、廖君、斎藤(信)君、津田君、鷺田君
	出席数	51名		
	出席率	80.95%		
前回の出席	前回出席率	82.54%	メンバー	阿宗君—山形 RC 阿部(襄)君、長谷川君、富樫君 —鶴岡西 RC
	修正出席数	56名		
	確定出席率	88.89%		

〔2〕 ビジター

今回	鶴岡西 RC	
3名	帯谷義雄君	
前回まで	羽根田正吉君	
9名	栗本安基君	
7月計		
12名		

〔3〕 ゲ ス ト

徳永昭一郎氏 市立朝陽第二小学校 教諭
鹿児島市と鶴岡市との間で姉妹都市の盟約が結ばれ、それに基づいて交流教員の第1号として来鶴され朝陽第2小で教鞭をふるっておいでの予定です。本日スピーチをお願いしてあります。

※ 会長報告 一国際大会ニュースより一

国際ロータリー第63回年次国際大会が6月15日ヒューストン市に於て開催され世界中の75ヶ国からロータリアンとその家族及び友人を含めて14,296名が参加した。

「今週我々は新しい社会奉仕の方法の探究に集まった」というスウェーデン、カルマー出身のロータリー会長アンスト、G・ブライトホルツ氏の熱意を込めた開会の辞で始まった

この大会での新味は各地区のクラブから選ばれた代表各1名から成立する総計365人の規定審議会が今回初めて、国際ロータリーの立法機関を構成したことである。(従来は加盟クラブから派遣された国際大会代議員が、審議会を単に諮問機関として立法問題を決定してきた) オーストラリア、ニューサウス・ウェールズ、シドニー出身の国際ロータリー前副会長A・D・G・ステュアート氏を議長として記録的な83に上る制定案と決議案とに取組んだのである。その結果審議会は、20を採択、25を拒否し、他は原案を撤回した。

日曜日：テキサニア'72

大洞窟のようなアストロドームで、催し物を行うには、大規模でやる必要がある。まさにその通りで、ロータリー国際大会の開会式は、雷鳴の如きバンド演奏で幕が切れて落とされ、活発な行進隊が続ぎ、280の騎馬隊によってロータリー加盟各国の国旗が掲揚されページェント……音……色彩……光に満ち溢れたものであった。国際大会委員長であるメキシコ、モントレイ出身のカルロス・カンセコ・ゴンザレス氏は、スペイン語で歓迎の言葉を述べた。

フィナーレは、3人の宇宙飛行士が現われた。彼等はすでに宇宙に於て如何に協力が重要であるか経験済みであり「地球という宇宙船」に於ても一層の協力が必要であることを意味するものであった。

月曜日：和合と青少年

ロータリー会長がサムヒューズマン円形劇場の演壇に上がり、厳粛に一層の社会奉仕の

増強と、ロータリーにおける絶えざる和合の必要性を説いた。更に彼は3つの観察について述べた。

「私の観察した所では工業国に於て、特に(福祉国家)と云われる国々に於ては、社会奉仕の計画のチャンスが次第に減少して居ると云うのは、直接には政府及び他の施設が、種々な社会の必要を満たす仕事を肩代わりして取上げている事実である」

「然し、あなたも私も、まだまだ為すべき事は沢山あることを知っている。ロータリアンは、個人的な接触に依って、他の如何なる福祉計画も為し得ない必要を満たす事が出来るということである。」

「我々はかかる必要を捜し求めるべきで、ロータリーこそは開拓者——探検家の精神をもつことが可能であり、また持ち続けなければならない。ロータリー以外の如何なるグループもロータリー程この必要を捜す力もないしまた指導者をして、この必要を満たす資源を総動員せしめる力もない。」

しかも彼は「世界社会奉仕の仕事は、人類が助けを求めている時に力を貸し、かつ同時に遠隔の国々にあるロータリアンとの友情の絆を創り出すのに誠に素晴らしい機会である。」と説いた。最後に、彼は、すべてのロータリアンは、ロータリーの比類なき国際的性格を失なわないよう強調して、「各クラブは他のクラブの自主性を尊重し、また他のクラブと種々のアイディアを自由に交換し合っ

て密接な連繫を保たなくてはならない。」と云い「人々の友情は政府間の関係に影響を及

ばすものである。乃ち善意が生ずれば次いで平和が来る、善意は先ずあなたから始まるのである」と結んだ。

火曜日：刀剣を鋤の刃に？

「我々は新計画を加え、旧計画を拡大して、青年たちに7百件を越える補助金を与えた」ロータリー財団管理委員長、米国ノース・カロライナ州チャペル・ヒルのルーサー・ホッジ氏が云った。財団への寄付金は1971—1972年度中に3百万ドルを超過するであろうと報告した。同氏は第500地区（米国ハワイ）に表彰状を贈呈した。

その次ぎ軍備競争と国際的進歩に関する3人の国際的専門家が「われわれは刀剣を鋤の刃に打ち直せるか？」と云う問題に取組んだ
水曜日：仕事……そして働く者の関心事

仕事は特権となるだろうか？スイス、ゼネバの国際労働研究所々長ロバート・コックス氏は、職業奉仕関連の学究的な講演がなされた。同氏は「10年前には、オートメーションと云うことが否応なくわれわれに方針を再考させ始めた。今やわれわれは、水準の違った技術が共存し、互いに関係し合っている世界のことを考えるべきである。

伝統的な農業社会（世界の労働力の30パーセントそこそこ）は、「みどりの革命」と政治的革命的結果として崩壊しつつある。

工業化社会（40パーセント）では労働力の大量転置によって、都会の貧民街と荒れ果てた町の住民が実質的にふえるだろう、その人たちは定まった生産的職業を持たず、その爆発的な不満が紛争の前兆をなしている、と予

言する。

工業社会（25パーセント）は既に心身の過度の緊張と職業道義の低下に悩んでいる。

そして脱工業化社会では、環境要因と個人の自由についての関心事が脚光を浴びてきた

同氏は警告して、技術は仕事の途絶に弱い人間をおびたたく作り出した。と同氏は、仕事と労働関係に影響する4つの探究的な努力、すなわち傾向を引用した：

○産業関係で合意に達する要因を増強すること。

○各自が自分の仕事をもっと自由になりたいという要求。

○仕事と暇な時間との区別を「ぼかす」こと
○それから仕事と取入との関係に対する心構えを変えてること；である。

木曜日：もう一度見直そう

次期会長、米国アラバマ州バーミンガムのロイD・ヒックマン氏は1972—73年度テーマ：「もう一度見直そう。」を披露。

「これはロックリアン各個人に向けられた極く簡単なメッセージであります—あなたにも私にも—換言すれば『ロータリーの綱領を見直して、各人が奉仕の4部門を実行しよう』とすることです。…各人がそれぞれ参加することによって、ロータリーを生まれ変わらせよう」と同氏は述べた。

※ 幹事報告

○当クラブの8月9日の例会はオハイオ国際親善合唱団来鶴のため鶴岡西R.Cと合同例会とするため8月9日午後4時30分産業会館

5 Fに変更いたします。

○353地区 インターシティ、ゼネラルフォーラムの日程

庄内8クラブ 10月22日 ホスト 酒田R・C

○350・351地区年次大会

9月23～24日 札幌厚生年金会館

○例会時間変更

山形R・C 8月2日 PM6時 丸久屋上

大阪南R・C 8月17日 AM12時30分

○会報到着

郡山R・C 八戸東R・C 大阪R・C 石巻R・C
鹿児島西R・C

○礼状

鶴岡水泳連盟より資金カンパに対してのお礼状

○米国ニュージャージー州シートンホール大学日本研修団一行25名が7月26日から8月5日まで鶴岡市や羽黒・松ヶ岡を中心として「中世に於ける城下町」をテーマに研修するため来鶴する。同研修団が中世の城下町として鶴岡を選んだのはニュージャージー州ニューブランズウィック市の市長が姉妹都市である鶴岡市を推せんしたためである。鶴岡市では一行を羽黒山、致道館等に案内し午後4時より市長歓迎パーティーを開く予定となっており当クラブより三井(徹)君、小花君、齋藤君、張君、早坂君、会長・幹事が出席する。